



「速報」は大きな行事や出来事を皆で共有する為に発行します。

発行：令和7年7月
山城ネット（情宣チーム）

～略語解説～

- ※（手）＝手話
- ※（手サ）＝手話サークル
- ※ 暮らし研修会＝聴覚障害者の豊かな暮らしを考える山城研修会
- ※ センター＝聴覚言語障害センター
- ※（ヨ）＝要約筆記
- ※（ヨサ）＝要約筆記サークル

聴覚障害者の豊かな暮らしを考える 山城研修会（暮らし研修会）in 宇治 令和7年4/13（日） テーマ「災害に備えていま できること2」

会場：宇治市総合福祉会館

司会は向かって左から
宇治ネットの新治さん、
暮らしチームの山崎玲子さん
+ 林かおりさんの3人。



司会／宇治市危機管理室から、
非常食を頂きました。
災害時にはお湯が無いかも知れないので、今回は**水で**作ります。
1時間かかります。（お湯なら15分）
では、**1時間後、食べましょう。**

さて、昨年11月の暮らし研修会から今日までに、各地域ネットでは何をしたのか。また、行政の取り組みの有無なども併せて、順番に報告して下さい。

～城久ネット～

・（手サ）「めだか」の例会で、**視聴覚障害者災害対策支援リーダー養成講座**（全日本ろうあ連盟）をオンライン視聴しました。

・（手サ）「てまり」では、避難が必要！その時の為に、日頃から身の周りで情報を伝えてもらえる関係を作っておくことが大切だ。
避難所では手話が通じないかも知れません。その場合は（ヨ）が必要だ。など、色々話し合いました。

・城陽市難聴者協会は「城陽市障がい者自立支援協議会」の中の5つの部会のひとつに入っています。

約2ヶ月に1度開催される学習会の主なテーマは防災。そこでは、聴覚障害に関する啓発冊子「みんなで話そう」や、防災マニュアルの見直しなどを話し合っています。

校区ごとに**避難所や経路**や、非常持ち出し袋についても確認しました。

・「耳が不自由です」と書かれた**ビブス**も作成しました。

～八幡ネット～

・**マイタイムライン**を作ろうと、関係5団体がそれぞれに、自分たちの**避難場所を確認**するリストを作りました。今後は、地域に分かれて、そこに（ヨ）者、難聴者、ろうあ者、（手サ）員が居るのか等の情報を共有したい。

・救急搬送時の**コミュニケーションボード**（簡単な指差しボード）を行政と一緒に作成しました。

・**バンダナ**も作成しました。購入者に、バンダナを着用して、聴覚障がい者である事をアピールする必要がある事を伝える。

～綴喜ネット～

・京田辺市難聴者協会で、京田辺市安心まちづくり室に避難訓練の申し込みをした時、「手話通訳者を派遣しましょうか」と言われた。

つまり、**担当者は要約筆記のことを知らなかった。**
もっと周知する必要性を感じました。

避難所の（例えば）受付の後ろ等に、障がい者のグループを作って欲しい。そうすれば、（ヨ）者と（手）通訳者が1人ずつでも助かる。それとバリアフリーにして欲しいことも併せて、行政に伝えたい。

・市役所に「障害者に特化した災害マニュアルを作っ
てほしい」と申し入れました。

その後改正されたが、**ろう者について記載がない。**
備蓄品も色々足りていない。今後、注視していく。

～相楽ネット～

- ・相楽センター*が地域と一緒に実行委員会を運営している聴覚障害者の為の情報学習や交流の場「たんぼの会」で、防災についての学習を2回実施予定です。
- ・2/22、相楽条例制定検討委員会の報告の終了後、聴覚障がい者4名に、災害について思うことなどを話して頂きました。その上で、災害をテーマにグループワークを行い、次の様な意見が出ました。(抜粋)
- ・避難所では、目で見て分かる情報保障にして欲しい。
- ・アイドラゴンを設置して欲しい。
- ・避難持ち出しグッズの追加案(筆談ボード、充電器、聴覚障害者の用品など)
- ・防災アプリや災害情報関連のSNSへの登録は重要。
- ・夜中に火事！聞こえない私は気づかない！
その時、窓を割ってでも伝えてくれる。
そんな近所との関係作りが大切だね。

～宇治ネット～

- ・自衛隊の方のお話を伺う機会を得られました。
昼夜を問わずの活動(土砂や瓦礫の除去、生活支援、入浴、給食、重たい荷物を背負い、分断された道を歩くなど)
実際に現場での体験談や映像に触れ、ニュースで見るのとは違い、心を打たれました。

情報／

防災士という資格があります。

その試験に向けた講座「京都府防災士養成研修」があります。

京都府の災害対策課が受付ですが、各市町村の該当課(宇治市の場合は「危機管理室」)で資料をもらって、申し込むと講座受講料の減免制度があります。
ただ、この養成研修は2日間あり、朝9時～夕方5時。
長いので、多分疲れます。

～休憩 + 非常食を食べてみましょう。～

芯があるし、味にムラがある。
だけど、食べる物がこれしかない、
という意味では十分に
美味しく頂ける。

いやいや、
思ったよりも美味しいよ。僕は好きだ。
それに結構多い。これなら十分だ。

最初によく混ぜないと、
硬さや味にムラができる。
もちろんお湯で作った方が
美味しさに決まっています。
でも災害時には水しかない
かも知れない。

尚、調理後の賞味期限は、
封を切らずに置いておく時の
賞味期限ではありません。
ご注意ください。

～グループ分け + ダンボールベッドの組み立て～



グループに別れ、それぞれの会場で段ボールベッドを組み立ててみました。



そして寝転がって
みました。
実際これが避難所に
並ぶと、どんな感じ
かな・・・？



見た目よりも丈夫で、
コンパクトに収納できる。
ベッドの高さが低いのは、子供の身長も考慮しての事だそうだ。
避難持ち出しグッズは、何を準備しているか？
水の入ったペットボトルをスマートフォンで照らせば、ランタンになる。



災害時のアイデアなどの情報交換もできた。
バンダナやビブス作成のアイデアを頂いた。

←しかし、バンダナやビブスは避難所に常備されていた方がいいのでは？
などなど、様々な意見が出た。

避難訓練は障害に特化するだけでなく、地域の人と一緒にすることも大切だという意見もあった。
実際に体験してみないと分からないことを多く得られました。
今後も、災害に関わる学習は継続していきましょう。

